
戦争体験を聞いた事がありますか？

芹沢 忍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

戦争体験を聞いた事がありますか？

【Nコード】

N1590N

【作者名】

芹沢 忍

【あらすじ】

エッセイかな。テレビで「家族から戦争の話しを聞いたことがありますか」ってのをやっていたので、じゃあ、自分が聞いた話を覚えてる限り書いてみようと思い書いてみました。

（前書き）

小説ではありません。エッセイです。自分が戦争に関して聞いたことを書いてみました。行きあたりばったりな文章になっているかもしれませんが、お付き合い頂ければ幸いです。

ニュースで「貴方は家族に戦争の話を聞いたことがありますか」という事を言っていました。見てみると自分よりは若干年下のアナウンサーが今まで全く聞いたことが無いと、高齢の親戚に話を聴きに行くという内容。「（亡くなった）叔父さんがいれば、もっと話しが聞けたのにねえ」とうアナウンサーの母親らしき方のコメントを聞いて思わず首を傾げてしまいました。もしかして、戦争の話を親戚から聞いていない方が多数派なのかい？ 自分は幼い時分より親戚は勿論、会社でも聞く機会があったので、聞いていないという言葉が衝撃的でした。

「え、マジですかい？」

テレビを前に、じゃあ覚えてる限りだけど、人から聞いた話を記しとかないといけないかなあ、何て思ったりしました。で、ここに書いてみる次第です。

一番初めの記憶は、父方の祖父宅。小学生の低学年じゃなかったかなあ。叔父の部屋に入り込んで昔のアルバムを見せてもらってました。セピア色の写真は味わいがあって、幼い自分の興味を思い切り引く張るには充分。

その中に格好良い写真がありました。写真館で撮ったらしい男性の肖像。真つ白な上下。詰め襟に帽子に剣。見入っていると、叔父が自分の兄だと話してくれました。それなら何で自分は会った事が無いのかと問うたんです。そうしたら、戦争に行って帰って来なかったという答え。

当時、母に連れられ、原爆写真展に行ったりしていたので、戦争は漠然と怖いものと認識してはいたと思います。ただね、惨い写真は怖いと感じても実感としては感じられなかったんです。

それがいきなり身近な話になりました。今思うと、出征直前の

写真だったのでしょうか。覚えている限りでは帝国海軍将校の第二種軍装だと思えます。それだけ焼きついている叔父の姿です。

話しは続きました。実は兄弟は六人いて、三人は戦争に取られたと。海が近かったので三人とも海軍。遺体は戻らなかったと言っていました。戦争は遠いものと思っていたので、大きな衝撃を受けたものです。この歳になっても記憶が鮮明ですもの。父は戦後の生まれ亡くなった叔父たちとは歳が十以上離れていたはすです。戦争がそのままその歳の差なんですよ。

その後からです。嫌々だった戦争の記録をしつかりと見るようになったのは。

母方の祖母からは、疎開前に空襲に合ったという話を聞いています。怖くて逃げていたこと。飛行機の音が怖ろしいこと。無事に生き残れたことに対する感謝。空襲体験があったからでしょう。元気で暮らせること、働けること、食事が出来ることを、常に感謝しています。そして、何かあると「幸せだなあ」と言うのが口癖のような人です。

戦争のシーンや、戦争という言葉を聞くと「二度とあってはいけないことだ」「今が平和で幸せだ」と言います。ドラマの中の空襲シーン。飛行機の音を聞くと「嫌だ嫌だ」ととても辛そうにしています。

その姿を見るといかに深い傷が残っているんだろうかと思うのです。

社会人になってからは、会社でバイトの子が「祖母が被爆者なんです、自分は被爆三世なんですよね」と。何でそんな話しになったのか覚えていません。彼女がお祖母さんから聞いた原爆の話し。広島爆心地からは遠く離れていたけれども、凄い騒ぎだったとか、近くの人が町から帰ってこないという話をされていたとか。実際にお祖母さんは爆心地近くまで行って被爆されたようです。お母さんは二世。彼女を産む際には悩んだそうです。障害が出るかもしれないからと。だから生まれて無かったかもしれないんですと、さらっ

と笑って語ってました。これは体験談ですが、戦争の実体験というよりは戦争の傷跡の話ですね。

最後に会社の仕事関係でお付き合いがあった某漫画家さん。亡くなる前に良く東京大空襲の実体験を語ってくださいました。焼夷弾が一メートルも離れていない目の前に落ちたと。幸運にも不発弾で命拾いをしたと、当時を思い浮かべているのか、暗い眼差しで語って下さいました。もう少しずれていたら即死。不発弾でなければやはり即死。命を拾ったと思ったそうです。それから生き方を変え、好き勝手やってたらこうなったと笑っていましたね。

聞いた話しは短いですが、実際に体験されている方が語ると空気が変わります。一気に緊迫した状態になります。記録として残すのも意味はありますが、あの語りの空気は残らない。本当は、そういった空気も感じられるような表現で残したいんですが、難しいですね。映像でも多分再現出来ないのではないのでしょうか。

当時の記憶を持った方々は徐々に旅立ってしまっています。せめて聞けるうちに話を聞いておいてもらいたい。出来れば歳が若い人程。幼いうちに話を聞いて、心の片隅にそつと本のように置いておいてもらいたいと思います。そして時々その本を開いて欲しい。思い出した時でいいので。

話を聞いた人たちは戦争が悪いとも、どこが悪いとも語っていません。怖ろしいことと死について淡々と語ることが多いです。根源的な恐怖。二度とこんなことには会いたくないといったことをひしひしと感ずるのです。最もな事です、大切なことだと思えます。つたない文章ですが、思った事を一息に書き付けてみました。

（後書き）

とにかく勢いで書いてしまいました。ちょこつと頭の端にでも引っ掛かってくれればうれしいです。多分、亡くなった叔父たちも喜びます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1590n/>

戦争体験を聞いた事がありますか？

2010年10月8日13時35分発行